

科目コード	2698226	授業概要	【授業内容】 西洋造形を理解したうえでのアカデミックな視座から、人物石膏像をモチーフとした応用的な鉛筆素描による表現を行います。はじめにモチーフ固有のムーブマン、位置に応じた構図、印象の捉え方の内容に端を発し、本講義での学習を促進させます。併せて、絵画空間固有の計画性を持った作品作りを理解し、実制作へと向かいます。途中講評、最終講評を行うことで、制作における到達点と課題についてそれぞれ考察を行います。受講生の皆さんは、8回の授業すべてに出席する必要があります。 【到達目標】 西洋造形を用いた応用的な素描表現をするために、制作時の客観的な視点を獲得し、現象を利用した正確な質感表現と、造形思考による空間・量感を表現できるようにする。 【授業テーマ】 第1回 絵画空間を創造するための鉛筆素描についての諸注意 第2回 描きだしの際の、印象の把握とムーブマンの形成について 第3回 最終的なバルールのための契機作りと、空間に応じた側面の表現について 第4回 途中講評と、頭部骨格の再現性について 第5回 途中講評と、頭部骨格の再現性について。 第6回 途中講評を起点とした素描の続き 第7回 差異を用いた空間表現について 第8回 講評と考察：到達点と今後の課題 【学生へのメッセージ】 明度・彩度の関係を理解し再現できることを前提として、本講義では鉛筆素描を行います。「石膏デッサンを描こう」を受講しているか、あるいは、概念上の山折りと谷折りの紙を正確に表現できることが望ましいです。 【受講前の準備学習等】 講義はじめに作品講評を行います。スケッチブック（A4サイズ程度）に、鉛筆（木炭は不可）を用いて描いた「山折りの紙」の素描1点と、「谷折りの紙」の素描1点を、当日持参してください。 【成績評価の方法】 成績評価は、授業中の学習状況及びレポートの評点により行います。 【受講者が当日用意するもの】 途中講評と最終的な講評の際、バルール確認のために使用しますので、鉛筆によるグラデーションスケールを各個人の素描用具に応じた明暗に合わせて、作成してください。大きさは任意で構いませんが、目安として4cm×20cm程度の枠内に作成してください。 【教科書】 授業当日にプリントを配付します。 【その他（特記事項）】 汚れてもよい服装、筆記用具、鉛筆を削るためのカッターナイフ、素描用具一式。手のひらサイズの鏡。事前課題。※その他、普段、鉛筆素描に使用している道具があれば持参ください。
学習センター	長崎学習センター		
学習センターコード	42A		
クラスコード	K		
科目名	石膏デッサン応用		
科目区分	専門科目：人間と文化		
ナンバリング	330		
定員	20名		
担当講師	マキノ カズホ 牧野 一穂 長崎大学人文社会科学域（教育学系）准教授		
日程 実施時間	2027年1月9日(土) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～17:10 2027年1月10日(日) 第1時限 10:00～11:30 第2時限 11:40～13:10 第3時限 14:00～15:30 第4時限 15:40～16:25 試験・レポート等 16:25～17:10		
実施会場	長崎学習センター講義室		